

## 4回生 伊藤学さん (佐賀市出身)



佐賀から世界の人々へ

～臨床と研究と～

1987年 4月 弘学館中学校入学  
1993年 3月 弘学館高等学校卒業  
1999年 3月 佐賀医科大学卒業  
1999年 4月 同大学附属病院等で研修  
2005年 6月 新古賀病院 心臓血管外科  
2009年 4月 佐賀大学医学部  
胸部心臓血管外科医局長

### 弘学館が原点

開校当初は全寮制で、中学1年100名(4回生)と高校1年62名(1回生)でのスタートでした。勉強やサッカーに励みましたが、今振り返ると、6年間、その時々嬉しかったことや、悩んだことなど色々ありました。学校・寮での共同生活を送る中で、切磋琢磨しながら「自分と向き合えたこと」、「人とのお会いの大切さを学んだこと」が、私の原点です。

現在、心臓血管外科の医師として22年目になりますが、医療が人と人の交わりで成り立つ仕事であることは間違いありません。各診療科との協力は勿論、看護師や臨床工学技士など異なる職種どうし協力して、集団の力を発揮することは欠かせないことです。「患者さんが何に困っているのか」、「自分が何をしたいのか」を判断し行動することが求められます。

年に一度「弘学館OB・OG、佐賀医大Drらの同窓会」を開催し、今年で10回目を迎えました。様々な診療科で活躍する医師や医学生、そして母校の先生方と、楽しく交流させて頂いております。

### 未来の医療に向けて

#### ～佐賀から世界へ～

医療技術は日進月歩で進化を遂げていますが、臨床では解決できない問題、課題は多く存在します。実際、心臓・血管外科領域で用いられる口径6mm未満の小口径人工血管は合成樹脂など人工的な異物材料からできているため、細菌感染や血栓ができやすいなどの問題があり、未だ市場が確立されていません。

現在、産学官と連携し、再生医療・組織工学の技術を用いて患者さんご自身の細胞のみを用いた小口径細胞製人工血管の実用化に向けた研究・開発に取り組んでいます。最大の特長は「体の異物となる人工材料を全く用いないこと」です。まずは穿刺部感染で問題を抱えている透析用人工血管の代用血管として、そして将来的には狭心症に対しての冠動脈バイパスへの手術に用いる血管としての医療応用が期待されています。

日々の診療から疑問に思ったことや、難題と向き合い、その原因を探究するリサーチマインドをもつことがこれからの医療に必要と考えます。

(2019年9月現在)

### 受賞歴

第115回日本循環器学会  
Young Investigators Award(2013年)  
第11回 Cardiovascular Translational  
Research Conference Award(2015年)  
第15回 産学官連携功労者表彰  
日本学術会議会長賞(2017年)  
「細胞製人工血管の臨床開発」

### 伊藤学さんのとある一日

7:30 カンファレンス(臨床)

9:30 外来診療

12:30 昼食・説明会

13:30 学生実習オリエンテーション

17:00 カンファレンス(研究)

19:00 研修医・学生と会食

22:00 帰宅

### 後輩へのメッセージ

親元を離れ、アカデミアハウスでの寮生活がスタートしたことを今でも鮮明に覚えています。6年間の生活で出会った友人、先輩、後輩、先生は一生の宝です。最初は何でもいいと思います。興味のあること、達成したいことを見つけて、一歩踏み出し、突き進んでみてください。自分なりの目標を持って、困難に立ち向かうチャレンジ精神とリサーチマインドが芽生えれば、将来、佐賀から世界に発信できる何か生まれるのではないのでしょうか。弘学館生を応援しています。